



100年の伝統を礎に新世紀へ——
成蹊中学校・高等学校のグローバル人材育成



成蹊学園アドバイザリーボード
政策研究大学院大学客員教授

黒川 清 氏

建学の精神に立ち返り、強みを活かす
—— Back to Basics

ような変化の中にあると認識しています。ITの進展により、どこにいても学ぼうとする気持ちさえあれば学ぶ時代になりました。国内でも知識習得量を測る試験から、体験ベースに生み出される思考力・判断力・表現力・主体性などを重視する試験に変えていく方向性が見えています。しかし、成蹊はもとも創立者の中村春二先生が知識偏重の教育を憂い、個性尊重の人格教育を実践するために創った学校であり、現在の教育の流れに対応する土壌があ

のですが、そこに宿る精神的な背骨の
言い換えれば哲学が欠如してしまっ
ているように思います。諸外国に見
られるように、しっかりと精神が宿
る仕組みや制度には運用面でも長年
の深い知恵が隠れています。流行に
合わせた「テクニカル」な対応では
なく、「物事の本質」を捉えたもので
なければ、世界では通用しないこと
は明らかです。

池上：そのような現状の中、私立学
校として成蹊の進むべき道はどのよ
うなものでしょうか。

「世界で生きる力」育てる

池上…今日は、成蹊ご出身で国際的に活躍されている黒川先生、同じく成蹊ご出身で成蹊中学校・高等学校の跡部校長に、「グローバル人材の育成」についてお話を伺いたいと思います。跡部先生はこの4月に新しく校長に就任されました。個性と自発的な問題解決力に重きを置いてきた成蹊中学校・高等学校への周囲からの期待は大きいと思いますが、お感じになっていることや抱負などをお聞かせください。

跡部：まずは教育自体が目を見張る

ります。人格面や学問的追求などバランスのとれた教育をしている自負もあります。今後生徒たちがいずれ、世界を舞台に幅広い分野で活躍できるよう、より強くサポートしていきたいと考えています。

黒川…おっしゃるように、教育を取り巻く環境も含め、まさに今日本は岐路に立っています。これからの社会をどうしていくか、教育をどうしていくか。問題は、芯となる思想や理念があるかどうかではないでしょうか。日本は形式的な仕組みを真似することは上手い



成蹊中学・高等学校長 跡部 清^{さやか}氏

主体的に学ぶ教育により、
世界で輝く「心の力」を育む

黒川：私は「Pack to Basics」、つまり建学の精神に立ち返ること、そして伝統に裏打ちされた特色、強みを伸ばすことが重要だと考えます。成蹊に限らず多くの私学の創立者は、激変する時代の中で人間の価値の一番大事なことを押さえることが、基本的なビジョンを持って学校を築き上げてきました。そうした精神・思想は背骨となり、いかなる時代にも支えとなるのです。成蹊には創立者である中村春二先生の素晴らしい教育理念がある。これはグローバル人材育成を形だけのものにしなないという意味でも大きなアドバンテージです。

で、その強み、あるいは足りないものに気づく。そうした自分を発見するチャンス、好きなこと、夢中になれることに合う機会が、ひとりでも多くの生徒に開かれてほしい。個人として実体験をすることで、多様性の中に飛び込んで他流試合をすること。そこから生まれる力が、今求められていると思います。一方で海外からの留学生も数多く受け入れていく。外国人と一緒に生活を送ることは、視野を広げる上で大いに役立ちます。その人脈が、将来世界を舞台に活躍するにあたって多大なパワーになることは間違いないと思います。

が知的好奇心でつながる活動ができる。これも他にはない成蹊の大きな強みであり、国際教育にも多くの可能性を与えてくれると考えています。

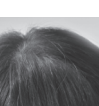
黒川…面白いですね。大学で言えば学部や専門分野の違う教員、学校を跨いだ教員同士などが知的好奇心でつながって、授業やワークショップなどを展開すれば、児童・生徒・学生も「あれは面白い」と盛り上がりつつくれますよ。教える側も過去の知識にしがみつかないで、教えながら

池上・私は、中村春二先生が目指した「自発的精神の涵養と個性の発見伸長を目指す 真の人間教育」こそ、グローバル人材育成の基盤となるものだと考えています。

跡部…同感です。当然ながら、一流の国際人とは、英語力が優れていれば良いというわけではありません。

池上…とにかくまずは海外に出て、実体験を積んでもらう。私たちはその機会をできるだけたくさん提供し、後押しをするということですね。

跡部…実は今年から、J.F.ケネディ元大統領の出身校としても



自らも共に学ぶスタイルでいくこと



成蹊学園常務理事
国際化担当

池上 良子



池上 敦子氏

成蹊教育の特色である個性尊重の教育、いかなる困難にも打ち克つ「心の力」を育む教育は、多様性に満ちた国際社会で貢献していくために、ますますその意義を高めていくように思えます。また、国際教育の伝統という点においても成蹊は創立当初から力を注いでおり、それは揺るぎないDNAとして今日に受け継がれています。

黒川・アメリカ屈指の有力校であるセントポールズ校、オーストラリアのカウラ高校との交換留学は素晴らしい制

ある村田奨学金をいただけることになりました。先日、同校訪問での協議で、来年から長期留学生の派遣が決定し、また、最近、さらにアメリカの名門校であるフィリップスエスクセクティブアカデミーの訪問を受けるなど、成蹊の国際教育の歴史に、またひとつ新しいページが加わりました。これもセントポールズ校との交流の歴史が高く評価されていることです。

黒川：それは素晴らしいですね。今、初等・中等教育の「世界標準」と話題になっているIB（国際バカロレ

小学校の英語の授業をサポートしたりと、ワンキャンパスならではの人的交流が盛んになってきています。私も学園全体の国際化を推進する立場の者として、これからも学校間の連携を強化していきたいと思います。それでは、最後にお二人からメッセージをお願いします。

黒川●教育は生徒一人ひとり、それぞれの可能性、意欲を引っぱり出す生きていく力をつけること。やりないうことを見つければ、生徒は自ら学ぶようになり、自らを一番伸ばして

跡部・セントポールズ校との交換留学の交流は65周年を迎えるまでになりました。また、カウラ高校との交流も45年、イギリスのケンブリッジ大学とも夏休みを利用した短期研修を実施して10年目になります。その他の制度も利用して、嬉しいことに、今年は現時点で長期留学が21名、短期留学76名と、あわせて約100名の中高生が海外に出て実体験をする予定です。

黒川…経験者は皆分かることですが、その場所に自分で行って、自分の目で見て、初めて気づくことがたくさんあります。外から自分や日本を見ること

を作って導入に向けた検討をしているところですが、付け焼刃的な知識の習得では対処できない、本格的な全人的教育プログラムだと実感しています。また、教師も含めて全員が生涯学習者であるという考え方も含めて成蹊の理念とも相通じるものも多く、それらの理念を具体化する教授法、評価法には大きな興味を持っています。

黒川：良いと思ったことは積極的に実行することが重要です。不完全であることを恥ずかしいと思わずに、前向きに努力し続けることから教員

ことなど、成蹊が持つさまざまな強みを活かしながら。

跡部・成蹊には、個性的な仲間たちと一緒に切磋琢磨できる環境がありさらに多様性を求めて海外に出ようとするば、それを後押しできるプログラムもたくさん用意されています。そして、これらをもっともっと充実させる新しいプランも検討中です。

「伝統に立脚し、未来を考えよ」という中村春二先生の言葉を噛みしめながら、建学の理念を礎に、バランスよく幅広い学びができる学校を目指して頑張っています。

個性と多様性の尊重、根底からの学び、多彩な進学先



多彩な進路を支える教育システム

最高の進路選択のためには、文化・科学の根底から学ぶ偏りのない授業カリキュラムのもとで自らの興味関心を発見するプロセスが重要です。この考えに基づき、本校では高校1年までは全員が同じ内容を学び、高校2年で文・理系を、高校3年で18のコースから1つを選択し、希望する進路を目指します。こうした、成蹊大学へ進む約3割の生徒と他の国公私立大学へ進む約7割の生徒両方に対応するカリキュラム・卒業生の協力を得た進路ガイダンスにより、医歯薬、芸術分野を含む多彩な進路が実現しています。

国際理解教育の多様なプログラム

1949年開始の交換留学をはじめ、長期・短期の様々な留学機会を用意。1年間の留学でも学年が遅れない制度や留学中の授業料等を半額にする制度を整え、留学を後押ししています。短期留学では、45年以上続くカウラ高校との交流の他、ケンブリッジ大学、UC-Davisとの提携プログラムなど、将来の進路選択を見据えた特色あるプログラムを実施。また、成蹊学園国際教育センターが国際理解教育をサポートするほか、高校への留学生受け入れも常時行っており、日常的に国際交流の機会があります。

2015年度学校説明会

[中学] 10/10 (±) 11/7 (±)

[高校] 10/31 (土) 12/5 (土)

会場：成蹊大学キャンパス 14:00～ 予約不要

2015年度中学受験生対象イベント

10/10(土) 14:00～ 体験イベント (クラブ活動) 要予約

10/17(土) 13:30～ 入試対策講座 要予約

11/14(土) 13:30～ 入試対策講座 要予約

※ご来校の際は上履きと履物袋をご持参ください。

NEW!

2016年度中学一般入試(帰国生枠)新設